

イノーバDXなら、 田植えと同時に 除草ができる。



バイエル

イノーバ[®]DX

1キロ粒剤51

稲発酵粗飼料
(イネWCS)に
使用可能

もちろん
田植の後でも
使える!!

- 除草作業が省略
- 均一散布が可能
- 散布適期を逃さない

水稲用一発処理除草剤

楽に、一発。



S U 抵 抗 性 雑 草 に 効 く



抵抗性雑草に効く、田植同時処理除草剤

バイエル

イノーバDX[®] 1キロ粒剤51

登録番号：第21120号

- 成分：ダイムロン 4.5%
- フェントラザミド 2.0%
- プロモブチド 7.5%
- ベンスルフロンメチル 0.51%



●毒性：普通物 (「毒物および劇物取締法」にもとづく毒物・劇物に該当しないものを指している通称)

イノーバDX1キロ粒剤51の特長

- 抵抗性雑草に対する高い殺草効果。
- 田植同時処理に最適な薬剤です。
- 移植後処理での一発除草剤としても高い効果を示します。
- 稲発酵粗飼料(イネWCS)に使用可能です。

田植同時処理は、田植同時散粒機で散布。

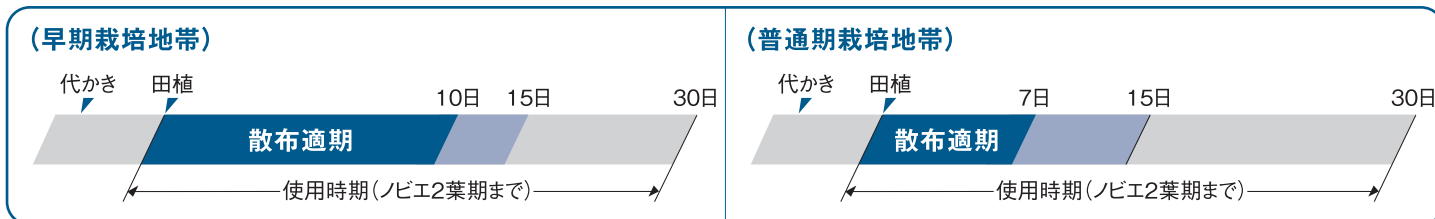


適用雑草および使用方法使用時期 (2019年4月現在の登録内容)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り 使用量	使用回数*	使用方法	適用地帯
移植 水 稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ(九州) ヒルムシロ(北陸を除く) セリ(北陸を除く) オモダカ(関東・東山・東海、九州) クログワイ(関東・東山・東海、九州) アオミドロ・藻類による 表層はく離(北陸を除く)	移植時	砂壤土～ 埴土	1kg	本剤のみ 1回	田植同時 散布機で 施用	全域(北海道、 東北を除く)の 普通期 および 早期栽培地帯
	移植直後～ ノビエ2葉期 ただし、 移植後30日まで	ダイムロン 3回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)			フェントラザミド 1回	プロモブチド 2回以内	
					ベンスルフロンメチル 2回以内		

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用時期 (本剤の使用は、ノビエ2葉期まで但し移植後30日までです。処理の目安を田植後の日数で示しました)



田植同時散布での上手な使い方

- ① 整地、代かきは丁寧にいき、田面水の流亡がないように畦畔管理を行って下さい。漏水田、かけ流し田では使用しないで下さい。
- ② 水尻を止めて通常の状態ですべての移植作業(薬剤散布)を行って下さい。
- 移植開始前、散粒機の取扱説明書(散布目安表など)を参考に、適正な散布量が得られるよう散布量調節ツマミで調整して下さい。また、移植中は容器内の薬剤残量を確認しながら、適量散布して下さい。
- 田植は丁寧にいき、浅植え、浮き苗などは生じないようにして下さい。
- ③ 田植終了後は、速やかに所定の湛水深(5cm程度)まで入水し、田面が露出しないようにして下さい。
- ④ 田植後3～4日間は通常の湛水深を保ち、田面が露出しないようにし、散布後7日間は落水やかけ流しはしないで下さい。差し水は、急激に行くと水口付近の薬剤処理層がこわれる為、静かに行ってください。

注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエ2葉期までに、時期を失ないように散布して下さい。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレがあるので、必ず適期に散布して下さい。
- 各雑草の散布適期は以下の通りです。
ホタルイ、エンノサヤヌカグサ 2葉期まで
ウリカワ、ミスガヤツリ、オモダカ、ヘラオモダカ、クログワイ 発生始期まで
ヒルムシロ 発生期まで
セリ 再生前から再生始期まで
アオミドロ・藻類による表層はく離 発生前
オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後期剤と組み合わせて使用して下さい。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態(湛水深3～5cm)で、まきむらが生じないように均一に散布して下さい。また、極端な浅水や深水での使用は避けて下さい。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないで下さい。また、入水は静かに行ってください。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化および植え付け作業は丁寧にいき、未熟有機物を使用した場合は、特に丁寧にいきして下さい。
- 下記のような条件では薬害が発生する恐れがありますので使用を避けて下さい。
① 砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
② 軟弱な苗を移植した水田
③ 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
- 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用をさしひかえて下さい。
- 散布田の田面水を他の作物に湛水しないで下さい。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがありますので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には十分注意して下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00～12:00、13:00～17:00
土・日・祝日を除く

(F-3114 19.04.JWT)